協働推進課大東北公民館講座
令 和 7 年 10 月 25 日

掛川 100 景を知る －掛川城編－

掛川市文化・スポーツ振興課
文化財係　学芸員　柴田慎平

１　一般的な掛川城のイメージ

〇平成６年に木造復元された掛川城天守【日本初の本格木造復元天守】
〇重要文化財である掛川城二の丸御殿【城主の常御殿の現存例は全国で４ヶ所】
〇掛川市民のシンボルであると同時にまちづくり、掛川観光の拠点【年間約 16 万人が来場】
〇掛川城と言えば建物のイメージが強く、城の構造という視点で見ることは少ない。
　⇒城郭は、**「作事（さくじ）」（＝建物）だけではなく、「普請（ふしん）」＝（城の縄張り、構造が重要**。日頃生活していると掛川城の大きさや構造について気にする機会は少ない。
　⇒今回は**掛川城の構造に着目**して城内を巡ります**【発掘調査成果の話が中心となります】**

２　掛川城の概要【本講座の解説ポイント】

〇 駿河守護今川氏の遠江攻略の足がかりとして 15 世紀後半ころ築城【重臣の朝比奈氏が城主】
〇 朝比奈泰能の時代に掛川古城から現在の天守丸・本丸を中心とする掛川城が築かれる。
　⇒連歌師宗長の手記に掛川城の普請に関する記載がある【大永２(1522)、大永６(1526)年】
　⇒「外城のめぐり六・七百間（１間＝1.8m換算で 1080m～1260m）」の堀の普請。少なくとも数年かかった工事であることがわかる。
〇永禄 11、12 年(1568、1569)に発生した徳川家康による掛川城攻め。
　⇒今川氏真が立てこもる掛川城の周りに家康は複数の砦を築いて包囲、半年にも及ぶ攻城戦。
〇**家康家臣の石川氏による掛川城の大改修**【三日月堀・十露盤堀の改修、丸馬出を構築】。
〇天正 18(1590)年に山内一豊が掛川入城。
　⇒石垣、天守等の建物の建築。城下町や町を囲う惣構え（＝外堀）の整備【今の姿へ】

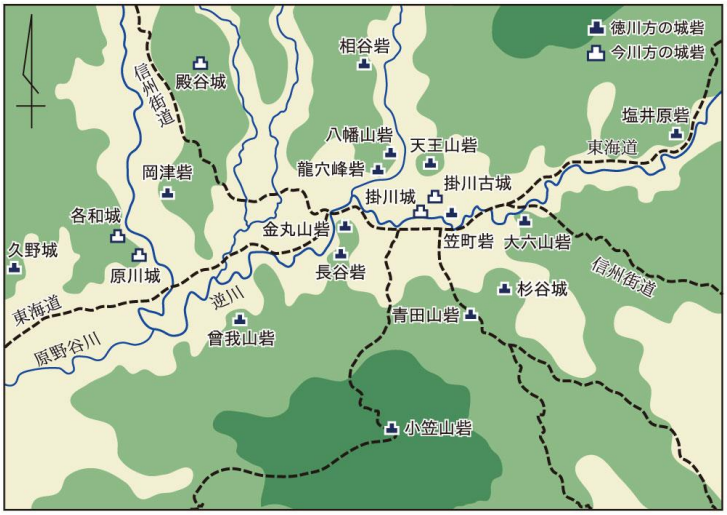

図１　掛川城攻めに関する砦群
【掛川市観光交流課 2023 掲載図を転載】

３　掛川城周辺の発掘調査について

１（H元、４、５）天守復元事業
２（Ｈ７）二の丸茶室建設
３（Ｈ８）二の丸美術館建設
４（H10・11）中央図書館建設
５（Ｈ７）小学校プール改修工事
６（Ｈ４～６）掛川駅北土地区画整理事業
７（H11）龍華院本堂・庫裏建設
８（H11・16）学術調査
公園周遊路整備
９（H25）消防署建設
10・11（H31）開発に伴う確認調査
⇒公園整備、公共施設の整備の目的で掛川城内の発掘調査を実施。

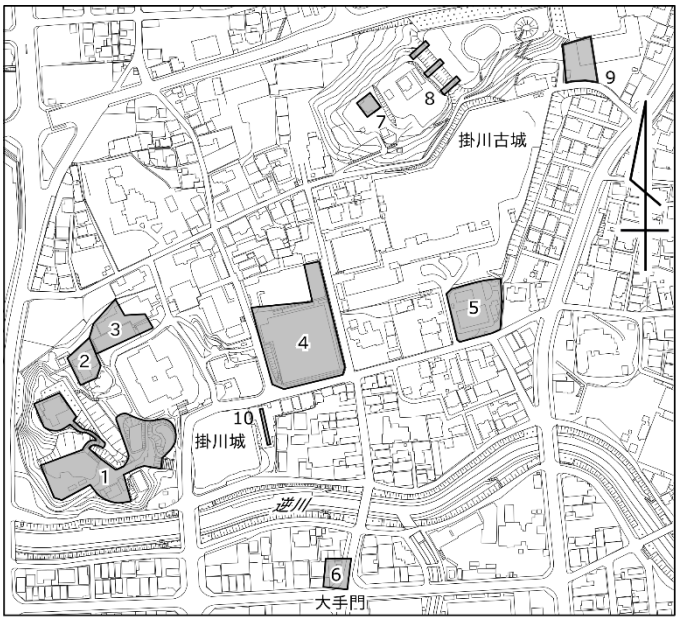

図２　掛川城周辺の発掘調査地点
【戸塚和美氏作成図に一部加筆】

４　掛川古城【調査地点７・８・９】

○本曲輪を中心に、曲輪と土塁、大堀切が残存。
○土塁は幅６ｍ、高さ 2.1ｍ。
⇒土塁下部から 16 世紀中頃の天目茶碗出土。
○**大堀切は現況で幅 15ｍ、深さ７ｍ**【調査地点８】。
⇒平成 16 年度の発掘調査で、**深さが９ｍ程度**であったことが判明。
⇒**今川段階ではなく徳川段階の改修の可能性**もある（戸塚 2022）。
○本曲輪から 16 世紀末頃の石積み井戸が検出【調査地点７】。
⇒少なくとも徳川段階までは城として機能していた可能性が高い。
○麓でも掛川古城段階の堀が検出。
【調査地点９／現在の消防署】
⇒幅３ｍ、深さ１ｍ程度の箱堀。
⇒**麓に居館等が築かれていたか。**

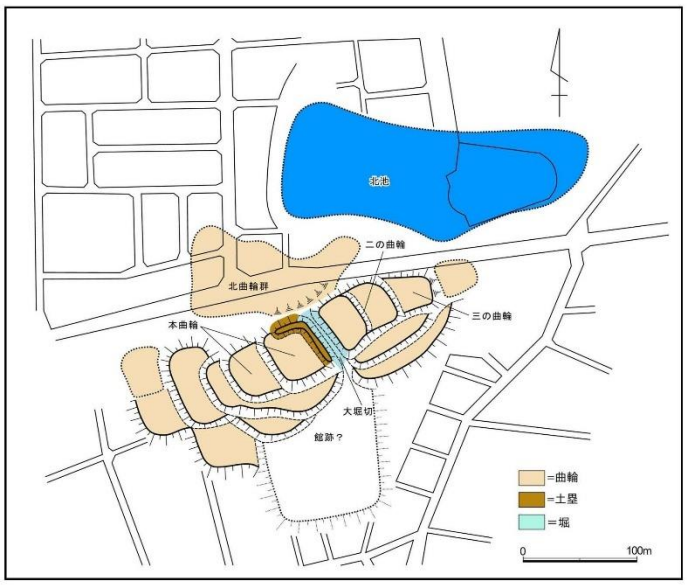

図３　掛川古城縄張り図
【掛川市教育委員会 1998 掲載図を一部改変】

写真１　掛川古城を囲む堀跡【調査地点９】

５　山下郭【調査地点４】

〇江戸時代は上級武士の屋敷跡。

〇江戸時代の面の下層から戦国時代、特に 16 世紀代の遺構面を検出。

⇒戦国時代の掘立柱建物跡、石組み井戸跡等が検出。

⇒金箔の貼ったかわらけが３点出土【守護所クラスの遺跡で出土する遺物】

〇建物配置等の状況は不明であるが、**城主朝比奈氏の居館があった可能性が高い**。

６　大手門・大手門番所【調査地点６】

〇掛川城の大手門（櫓門）は嘉永７（1854）年に発生した安政の東海大地震で倒壊し、安政５（1858）年に再建された。

⇒明治維新後に払い下げられ、その後焼失（門の規模、構造の詳細は不明）。

⇒大手門をくぐると一度東に折れ、その後北上するルート（土地区画整理事業までは残存）。

〇大手門番所は、明治維新後個人宅として利用。昭和 54 年に寄贈を受け、最終的には大手門の整備の際に現在の位置に移築された。

〇発掘調査で大手門の柱穴、土塀の石垣を確認。

⇒大手門の規模は、桁行７間（12.726m）×梁間３間（5.454m）

⇒大手門の柱穴は直径 1.2m～2.0m。柱穴の深さや造成の仕方に注目。

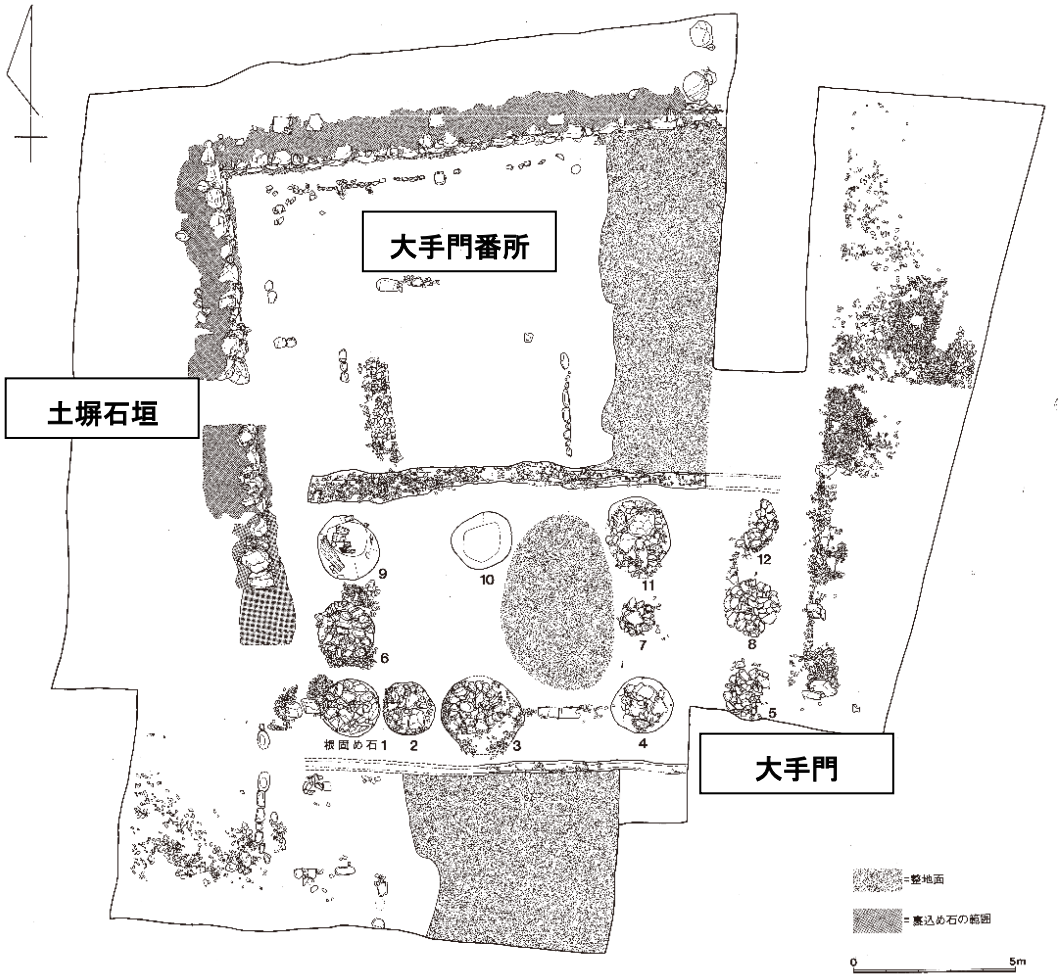

図４　大手門の発掘調査遺構図【掛川市教育委員会 1995 掲載図に一部加筆】

7　三日月堀・十露盤堀の発掘調査成果

〇本丸虎口（三日月堀、十露盤堀、内堀）

⇒馬出空間を備えた枡形虎口と評価。

⇒発掘調査成果から、16 世紀後半頃（徳川段階）の構築と判明。

〇遠江における丸馬出の構築について

⇒諏訪原城跡（島田市）の馬出は、武田氏構築のものを天正６（1578）年以降の徳川氏による大改修したと推定。

〇対武田を意識した大規模な普請の一環と評価することができる。

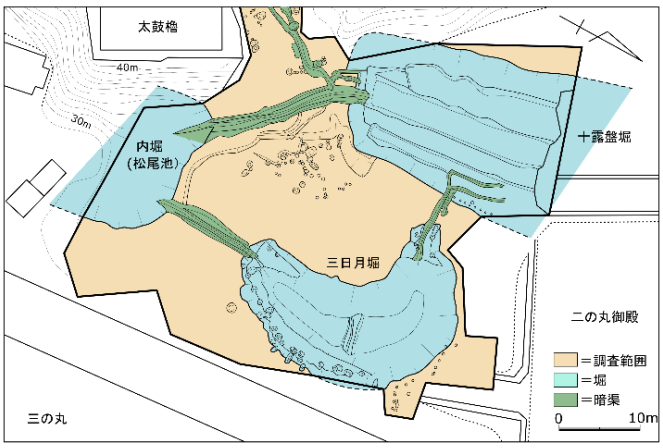

図５　掛川城本丸虎口の構造

【掛川市観光交流課 2023 掲載図を転載】

8　天守丸への登閣路の発掘調査成果

〇本丸から天守丸へ上が**登閣路の検出。**

⇒幅 80 ㎝、深さ約 10 ㎝の大きさの円礫を用いた側溝と石段の一部が検出。

⇒本丸から天守丸へは、中間の腰曲輪で３回折れないと上に上がれない構造。

⇒登閣路の東側には土塀が構築されていた（白漆喰の破片が大量に出土）。

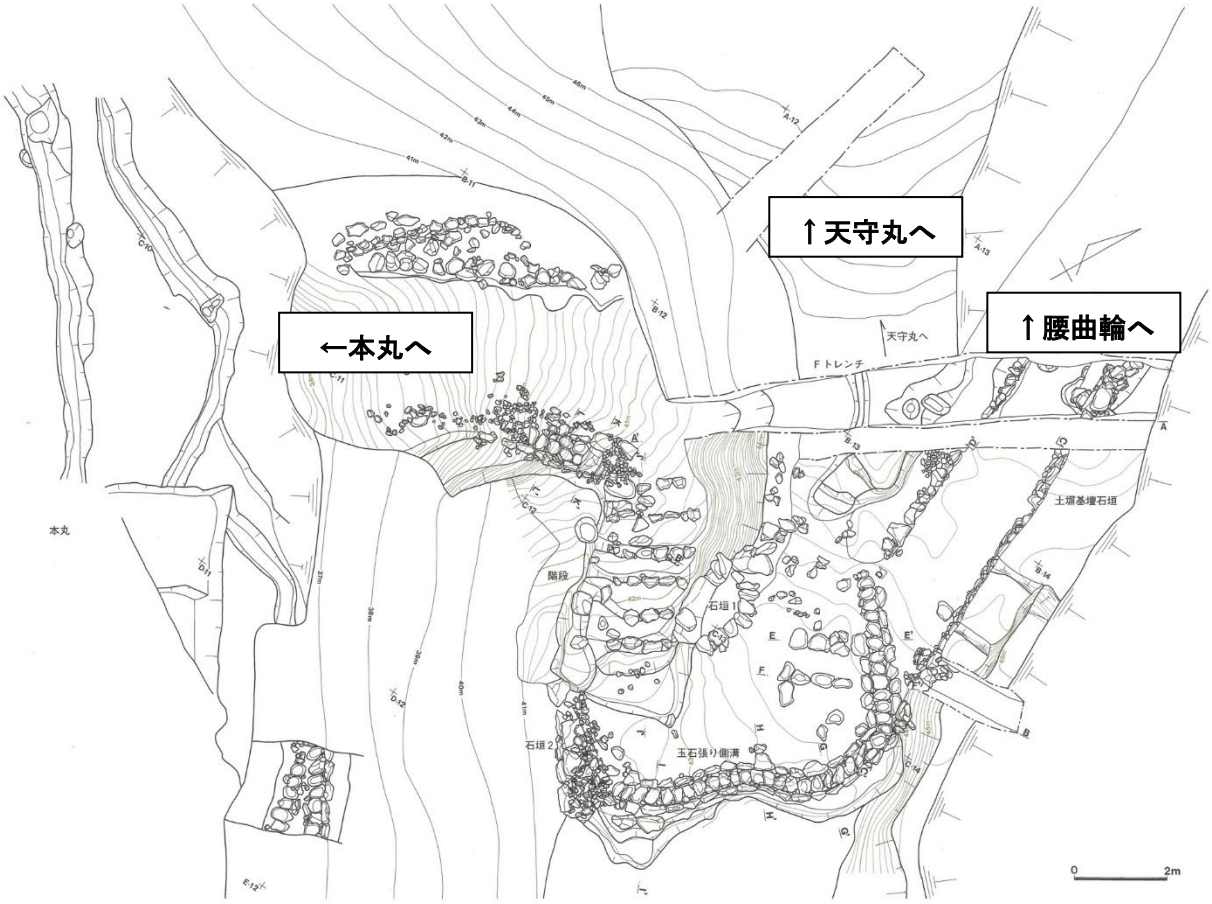

図６　登閣路の発掘調査遺構図【掛川市教育委員会 1998 掲載図を転載】

８　天守丸の発掘調査成果

〇朝比奈段階の可能性が高い虎口の発見。

⇒階段状に成形され、虎口の両側には小穴（柵列か木の階段が架設されていたか）

〇南東部に 12 基の大型土坑群の検出。

⇒長径 1.2m～2.1m、深さ 1.0m～1.4mの大きさ。

⇒ただの柵列ではなく、曲輪の端に重量構造物の基礎を設けていた可能性が高い。

〇天守台の石垣

⇒北辺約 16.1m、南辺約 16.3m、東辺約 11.3m、西辺 11.4m、高さは最大 18mの規模。

⇒南辺やや西寄りに付櫓がつく。石材は「日坂石」と呼称される軟質の砂岩を使用。

⇒石垣の時期は、山内一豊段階の構築部分と江戸時代や現代に積み直された箇所もある。

図７　天守丸の発掘調査遺構図【掛川市教育委員会 1998 掲載図に一部加筆】

発掘調査に関する参考文献

【調査地点１】掛川市教育委員会 1998『掛川城復元調査報告書』
【調査地点６】掛川市教育委員会 1995『掛川城大手門』
【調査地点 7】掛川市教育委員会 2001『掛川古城跡』
【調査地点９】掛川市教育委員会 2014『第 10 回出土文化財展パンフレット』
【調査地点 10・11】掛川市教育委員会 2019『第 15 回出土文化財展パンフレット』
【調査地点１～７】掛川市教育委員会 2001『掛川城址発掘調査概要報告書』

その他の参考文献

戸塚和美 2022「掛川古城の再検討」『静岡県考古学研究第 53 号』
掛川市文化・スポーツ振興課 2022『龍華院大猷院霊屋再建 200 周年記念特別公開資料』
掛川市観光交流課 2023『掛川城家康読本』
掛川市文化・スポーツ振興課 2023『掛川三城ツアー掛川城編解説資料』

『全国文化財総覧』で掛川市の発掘調査報告書の PDF データがインターネット上で閲覧できます！

掛川市制20周年記念

掛川埋蔵文化財センター 常設展示室をリニューアルしました！

掛川市制20周年を記念し、埋蔵文化財センターの常設展示を大幅にリニューアルしました。遺跡の発掘調査により見つかった旧石器時代から江戸時代にかけての遺物や調査時の写真を展示しています。是非お越しください。

開催場所　：掛川埋蔵文化財センター展示室（掛川市千羽986）

開催日時　：埋蔵文化財センター開館日　9:00-17:00
（入館は16:30まで、土、日、祝、年末年始は閉館）

入 館 料：無料（ご自由にお入りください）

問い合わせ　：掛川市文化・スポーツ振興課
（☎0537-21-1158）

高天神城マスコットキャラクター「尾白狐（おしろぎつね）」